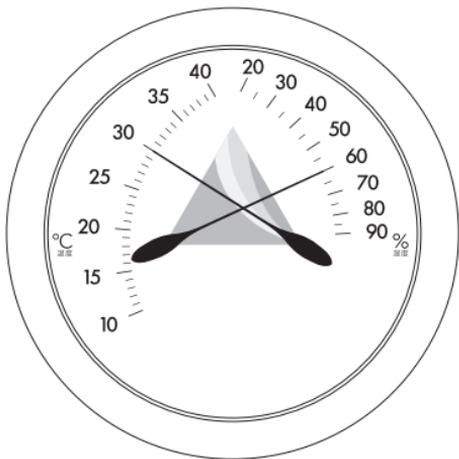


取扱説明書

保証書付

コンディションセンサー TC-420



※本書に記載されているイラストはイメージ図です。

もくじ

●安全上のご注意	2
●使用上のご注意	3
●正しいはかりかた	3
●お手入れについて	3
●各部の名称/付属品	4
●暑さ指数を確認する	5
●スタンドの使いかた	5
●保証書	6
●アフターサービスについて	7
●暑さ指数と室温、湿度の関係	8
●熱中症について	9
●熱中症予防のための補給について	10
●故障かな?	11
●仕様	12

お願い

誤った使いかたをしますと、重大な事故につながるおそれがあります。
この取扱説明書をよくお読みいただき、正しく安全にご使用ください。
また、必要なときにはすぐに取り出せるよう、身近に大切に保管してください。

安全上のご注意

本書では、ご使用になる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、お守りいただきたいことを次のように説明しています。本文をよくお読みいただき、本器を正しくご使用ください。

 警告	この表示の欄は「死亡または重傷* ¹ を負うおそれのある」内容です。
 注意	この表示の欄は「傷害* ² を負うおそれまたは物的損害* ³ が発生するおそれのある」内容です。
 禁止	してはいけない「禁止」内容です。

※1：重傷とは失明やけが、やけど(高温・低温)、感電、骨折、中毒などで後遺症が残るもの、および治療に入院・長期の通院を要するものをさします。

※2：傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。

※3：物的損害とは、家屋・家財などへの拡大損害をさします。

警告

測定結果は、決して自己判断しない

本器は熱中症を予防できる商品ではありません。

測定結果を基に自己診断しないでください。

ご使用前およびご使用中に本器に異常が確認されたら使用しない

異常があるままご使用になると、けがや事故が発生するおそれがあります。

本器を加熱しない

本器の変形により、けがや火災のおそれがあります。

乳幼児や子供の手が届くところに保管しない

乳幼児や子供だけで使用させない

小さな部品を飲み込み、窒息するおそれがあります。

またけがをするおそれがあります。

表示部を押さない

本器が破損して、けがをするおそれがあります。

本器に強い衝撃を与えない

本器を落とす、または本器に物を落とすなど、強い衝撃を与えないでください。

本器が破損して、けがをするおそれがあります。

隙間や穴に指を入れない

けがをするおそれがあります。

注意



分解や改造、修理をしない

けがをするおそれがあります。

使用上のご注意

屋外で使わない

以下に示すところで本器を保管、使わない

- ・火や熱を発生する器具に近いところ
- ・ほこりの多いところ

過度の衝撃や振動を与えない

破損や故障のおそれがあります。

アルコールや熱湯、ベンジン、シンナー、漂白剤などの薬品は使わない

破損や変形、変色のおそれがあります。

本器をぬらさない

防水ではありませんので、誤動作や故障のおそれがあります。

フック穴を使用する際は、耐荷重が不十分なフックは使わない

また、本器が揺れたり、落下しやすい不安定な場所につり下げない

落下などによる、破損のおそれがあります。

隙間や穴に物を入れない

破損や故障のおそれがあります。

正しいはかりかた

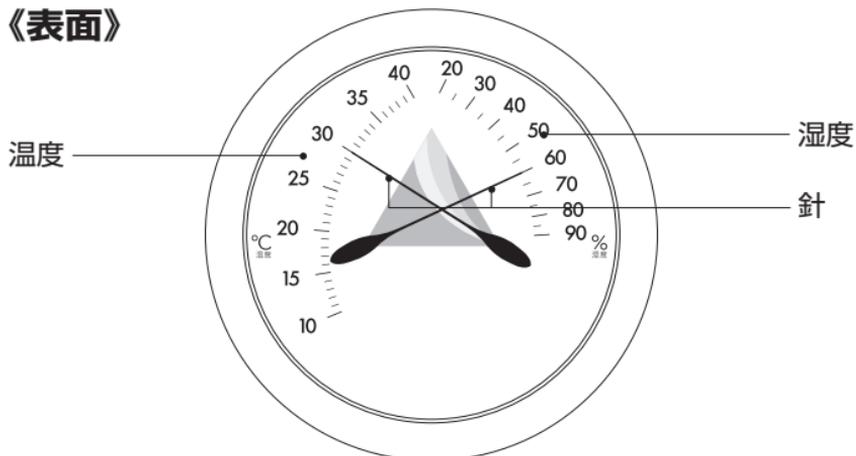
日光やエアコン、加湿器などの送風が直接当たるところへは置かないでください。
通気口をふさぐと正しい値が表示されなくなりますので、ふさがないようにください。

お手入れについて

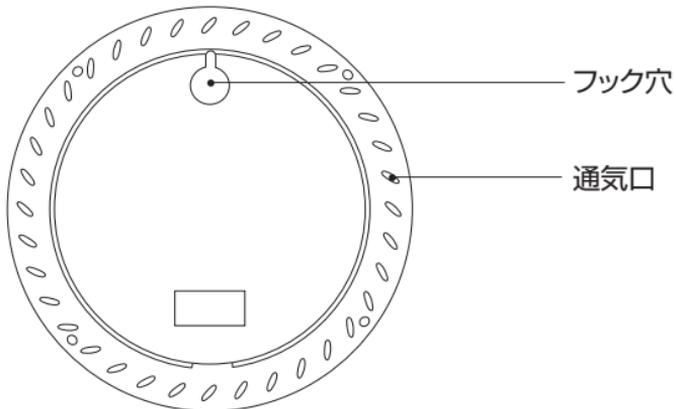
本器が汚れたときは、やわらかい布を水または中性洗剤に浸し、固く絞って拭き、その後乾いた布で拭き取ってください。

各部の名称 / 付属品

《表面》



《裏面》



付属品

取扱説明書(本書)保証書付

スタンド

※不足しているものがありませんでしたら、弊社お客様サービス相談室(TEL P.6)にお問い合わせください。

暑さ指数を確認する

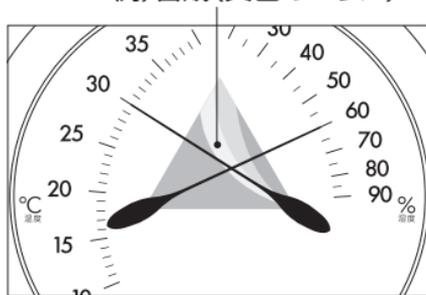
本器では、暑さ指数として熱中症が発生しやすい注意環境(コンディション)を、温度計と湿度計の針の交点でお知らせする温湿度計です。

室内の状態をいち早く把握し環境を改善することで、健康管理にお役立てください。

本器は熱中症を予防できる商品ではありません。

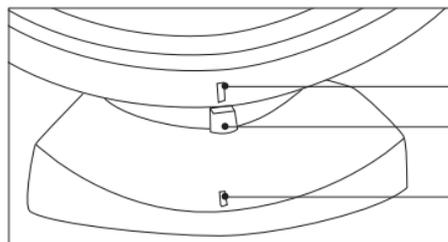
注 意	水色のエリア
警 戒	黄色のエリア
嚴重警戒	オレンジ色のエリア
危 険	赤色のエリア

例)警戒(黄色のエリア)



スタンドの使いかた

目印に合わせ、本器下側の穴にスタンドのツメをはめてください。



本器目印
スタンドのツメ
スタンドの目印

平らな安定したところに置いてご使用ください。

TANITA 保証書

販売店様へ

ご購入時に貴店にて、保証書の所定事項(お買い上げ日、販売店様欄に捺印)をご記入のうえ、お客様にお渡しください。

お客様へ

本書は、無料修理規程により無料修理をお約束するものです。お買い上げの日から以下保証期間中に故障が発生した場合は、本書をご提示のうえ、弊社お客様サービス相談室に修理をご依頼ください。

※お客様の個人情報は、修理完了品の発送にのみ使用させていただきます。この間、お客様の個人情報は、第三者が不当に触れることのないよう、弊社規程に基づき、責任をもって管理いたします。

品名	コンディションセンサー TC-420			
保証期間	お買い上げ日より1年			
お買い上げ日	年	月	日	
お客様	お名前			様
	ご住所			
	お電話	()	
販売店	店名・所在地			
	電話	()	印

株式会社 **タニタ**

本社・お客様サービス相談室 〒174-8630 東京都板橋区前野町1-14-2

ホームページアドレス <https://www.tanita.co.jp/>

お問い合わせ先

フリーダイヤル  **0120-133821**

携帯電話からはフリーダイヤルにつながりません。
携帯電話からのお問い合わせはナビダイヤルをご利用ください。

ナビダイヤル  **0570-783551**

通話料はお客様負担となりますのでご了承ください。

受付時間 / 9:00～18:00 (祝日を除く月～金)

タニタ サービスセンター 〒014-0113 秋田県大仙市堀見内字下田茂木添28-1

無料修理規程

1. 取扱説明書などの注意書きに従った正常な使用状態で保証期間内に故障した場合には、無料修理させていただきます。
2. 保証期間内に故障して無料修理をお受けになる場合には、弊社お客様サービス相談室にご連絡のうえ、本器と保証書をお送りください。
3. ご贈答品等で本保証書に必要事項が記入されていない場合には、弊社お客様サービス相談室にご相談ください。
4. 保証期間内でも次の場合には、有料修理になります。
 - イ、使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷
 - ロ、お買い上げ後の落下などによる故障および損傷
 - ハ、付属品、消耗品の故障および交換
 - ニ、火災、地震、水害、落雷、ガス害、塩害その他の天災地変、公害や異常電圧による故障および損傷
 - ホ、一般家庭用途以外に使用された場合の故障および損傷
 - ヘ、保証書の提示がない場合
 - ト、保証書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名が記入されていない場合、あるいは字句を書き替えられた場合
5. 保証書は、日本国内においてのみ有効です。
6. 保証書は、再発行いたしませんので紛失しないように大切に保管してください。
 - ※保証書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によって、お客様の法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間が過ぎている場合の修理についてご不明の場合は、弊社お客様サービス相談室にお問い合わせください。

アフターサービスについて

1.保証書について

保証書は、必ず「販売店名、お買い上げ日」などの記入をお確かめになり、保証内容をよくお読みいただき、大切に保管してください。保証期間は、お買い上げ日より1年です。

2.修理を依頼される時

- 保証期間中は、弊社お客様サービス相談室にお電話にてご連絡のうえ、本器に保証書を添えてお送りください。
- 保証期間が過ぎているときは、弊社お客様サービス相談室にご相談ください。
修理によって本器の機能が維持できる場合は、ご希望により有料修理させていただきます。

3.ご不明な点は弊社お客様サービス相談室にお問い合わせください。

暑さ指数と室温、湿度の関係

暑さ指数[WBGT(湿球黒球温度):Wet Bulb Globe Temperature]とは、熱中症を予防することを目的として1954年にアメリカで提案された指標です。単位は摂氏度(°C)で示されますが、その値は室温とは異なります。暑さ指数は人体と外気との熱のやりとり(熱収支)に着目した指標で、本器では熱中症になりやすい室内環境の注意レベルを4段階で表示しています。

以下のWBGTで「注意」、「警戒」、「嚴重警戒」、「危険」を針の交点でお知らせします。

WBGT	注意すべき生活活動の目安	注意事項
危険 (31°C以上)	すべての生活活動で起こる危険性	高齢者においては安静状態でも熱中症になりやすい。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。
嚴重警戒 (28°C以上31°C未満)		外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。
警戒 (25°C以上28°C未満)	中等度以上の生活活動で起こる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に十分に休息を取り入れる。
注意 (25°C未満)	強い生活活動で起こる危険性	一般に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には熱中症になりやすい。

相対湿度(%)

	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90	95	100
40	28	29	30	31	32	33	34	34	35	36	36	37	38	38	39	39	40
39	27	28	29	30	31	32	33	33	34	35	35	36	37	37	38	38	39
38	27	28	29	29	30	31	32	33	33	34	35	35	36	36	37	37	38
37	26	27	28	29	29	30	31	32	32	33	34	34	35	35	36	36	37
36	25	26	27	28	29	29	30	31	31	32	33	33	34	34	35	35	36
35	24	25	26	27	28	28	29	30	30	31	32	32	33	33	34	34	35
34	24	25	25	26	27	28	28	29	30	30	31	31	32	32	33	34	34
33	23	24	25	25	26	27	27	28	29	29	30	30	31	31	32	33	33
32	22	23	24	24	25	26	26	27	28	28	29	29	30	30	31	31	32
31	21	22	23	24	24	25	26	26	27	27	28	29	29	30	30	31	31
30	21	21	22	23	23	24	25	25	26	27	28	28	29	29	30	30	30
29	20	21	21	22	23	23	24	24	25	26	26	27	27	28	28	29	29
28	19	20	21	21	22	22	23	24	24	25	25	26	26	27	27	28	28
27	18	19	20	20	21	22	22	23	23	24	24	25	25	26	26	27	27
26	18	18	19	20	20	21	21	22	22	23	23	24	24	25	25	26	26
25	17	17	18	19	19	20	20	21	21	22	22	23	23	24	24	25	25
24	16	17	17	18	18	19	19	20	20	21	21	22	22	23	23	24	24
23	15	16	16	17	18	18	19	19	20	20	21	21	22	22	23	23	24
22	15	15	16	16	17	17	18	18	19	19	20	20	21	21	22	22	22
21	14	14	15	15	16	16	17	17	18	18	19	19	20	20	21	21	21

室内用のWBGT簡易推定図 Ver.4

この図は、「日射のない室内専用」です。屋外では使用できません。
また、室内でも日射や発熱体のある場合は使用できません。
そのような環境では、黒球付きのWBGT測定器等を用いて評価してください。

熱中症について

近年、地球温暖化の影響で平均気温が上昇し、真夏日や猛暑日が増加しているため、熱中症発症のリスクが高まっています。熱中症は炎天下での激しい運動や労働によって起こるだけでなく、日常生活の中で室内でも発症することがあります。

特にこんな人は熱中症に注意

●乳幼児や子供

体温調整機能が未発達で、適切な水分・塩分の補給は保護者によって行われるため、保護者の対応が不適切になると発症しやすくなります。乳幼児の自動車内放置による熱中症もそのひとつです。車内の温度は数分で50℃以上になることがあります。エンジンをかけ、クーラーをつけていても、何かの拍子で効かなくなることもあるので、季節にかかわらず、短時間であっても、絶対に車内に子供だけを残さないことが大切です。

●65歳以上の人、特に75歳以上の人

汗の量、のどの渇きなど、体温調整機能が低下するために発症しやすくなります。熱中症死亡者の約80%は高齢者です。室内の温度が28℃を超えないように調整しましょう。訪問や電話による安否確認を1日2回程度行うなど、周囲のサポートも大切です。

●肥満者

体温が上昇しやすい傾向があるため発症しやすくなります。

●仕事や運動(スポーツ)で無理をしすぎる人、頑張りすぎる人

●基礎疾患のある人、寝たきりの人

高血圧、心疾患、慢性肺疾患、肝臓病、腎臓病、内分泌疾患など。

●熱中症の発症を助長する薬を服用している人

抗コリン作用のある薬は発汗作用を来たす可能性があります。利尿剤は脱水を来たしやすく、興奮剤・覚せい剤は代謝を亢進させます。多くの抗精神病薬は体温調整のはたらきを抑制する可能性があります。医師・薬剤師にお問い合わせください。

●発熱、下痢、二日酔いなど、体調不良の場合

●農作業、安全対策作業などで、厚着や安全服などで全身を覆う場合

●急激に高温となった場合

暑さに慣れていないときは、特に注意が必要です。例えば、6月以前に急激に高温になったときや、暑い地方へ旅行をする場合などは注意が必要です。

出典 日本生気象学会「日常生活における熱中症予防」第2版(2021)より転記、一部編集

熱中症予防のための補給について

日常生活における補給

通常の生活では、食事などに含まれる水分を除いた飲料として摂取すべき量は1日あたり1.2Lが目安となります。

就寝中、入浴中も発汗するので、就寝前、起床後、入浴前後にコップ1杯(約200mL)の水分を補給しましょう。

日中は気付かないうちに水分が失われるため、コップ半分程度の水分を定期的に(1時間に1回程度)、のどの乾きを感じる前に補給するように心掛けましょう。

特に高齢者はのどの渇きを感じにくくなっているため、十分に注意する必要があります。

運動時や作業時の補給

水分の補給量は体重減少時7~8割程度が目安になります。体重の2%以上の脱水を起こさないよう注意が必要です。大量の発汗がある場合は、スポーツ飲料など塩分を0.2%程度含む飲料を摂取しましょう。

作業前：コップ1~2杯程度の水分・塩分を補給する。

作業中：コップ半分~1杯程度の水分・塩分を20~30分ごとに補給する。

作業後：30分以内に水分・塩分を補給する。

飲酒時の補給

アルコール飲料は利尿作用が高く、飲酒量以上の水分を排せつするので、飲酒後は水分・塩分を十分に補給しましょう。

空調装置使用時の補給

空気が乾燥するので、気がつかないうちに脱水が生じます。こまめに水分と塩分を補給しましょう。

出典 日本生気象学会「日常生活における熱中症予防」第2版(2021)より転記、一部編集

故障かな？

「故障かな?」と思ったら、修理をご依頼される前に、次のことをご確認ください。

現象	ご確認ください
温湿度の針が動いていない	冷蔵庫に10分ほど入れて、針が動くかをご確認ください。それでも針が動かない場合は、弊社お客様サービス相談室(☎P.6)にお問い合わせください。

仕様

測定範囲	温度	10~40℃
	湿度	20~90%
測定精度	温度	10~40℃ ±1℃
	湿度	35~75% ±5%(それ以外±10%)
最小表示	温度	1℃単位
	湿度	5%単位
機能	暑さ指数(4段階)	
寸法	約幅132×高さ132×奥行26mm(スタンド含まず)	
質量	約99g(スタンド含まず)	
主な材質	ABS、PS	
主な付属品	取扱説明書(保証書付)、スタンド	

デザインおよび仕様は予告なく変更する場合があります。